第３回「動物園大好き市民会議」　会議録

１　日　時　　平成２１年６月１６日（火）　午後３時～午後５時

２　場　所　　動物園　視聴室

３　出席者　　専門委員　１２名
有識者　　伊谷原一委員，大頭肇委員，小篠清委員，近森節子委員，
升光泰雄委員，山内五百子委員，山田秀司委員，
市民団体　大島由紀子委員，澤辺吉信委員，島田昭彦委員，中山誠委員，
山本皓一委員

京都市
動物園長　長谷川淳一，副園長　秋久成人　他

４　議　題　　別紙次第のとおり

５　概　要

伊谷座長　　「動物園大好き市民会議」第３回専門委員会を開催いたします。
＜配布資料の確認＞
伊谷座長　　本日は専門委員会として，午後４時頃から公募市民委員によるワークショップの報告を受けたいと思います。配布資料のニューズレターにありますように，ワークショップは３つのグループに分かれて話し合っています。本日はそれぞれ３つの班から選ばれたメッセンジャーに御出席頂いて，直接御報告頂きたいと思いますのでよろしくお願いいたします。それではこれから午後４時まで，素案の最後のソフト面の充実に関して皆様と議論をしていきたいと思います。議論の前に前回お配りした資料について何か御質問等はございますか。よろしいでしょうか。
そうしましたら，既に皆様にお配りしております，『共汗でつくる新「京都市動物園構想」（素案）近くて楽しい動物園』の２２ページから３８ページまで，「活性化に向けた取組について」既に目を通していただいていると思いますが，これに関しまして何か御意見，御質問，御要望等がございましたら，活発な御議論をよろしくお願いいたします。
「活性化に向けた取組」では（１）番に「基本方針」というのがありまして，その後に「教育プログラムの策定」，更には「市民との共汗でつくる動物園」，「サービスの向上」，「新たな入園者の開拓」という項目が挙げられております。それぞれ，どちらかというとソフト面をカバーしていく，ソフト面を充実させていくという内容になっております。特にどこからという事でもなく，皆様の中で何か御意見，御質問，こういったことを入れたほうが良いとい

った要望，こういう開拓が必要なんじゃないかという御意見がございましたら，よろしくお願いいたします。

中山委員　　下のカラフルな絵の中の「サービス向上」のところに書いてあります「顧客満足度（CS）の高いサービスの提供」というところですけれど，具体的に動物園の顧客の考え方，要は顧客とは誰の事を指しているのか，というのを具体的にお聞きして，その中で何かセグメント分けされていて，要は財布を握っている人なのか，実際に楽しむ人なのか。どの辺に対しての顧客サービスを考えていらっしゃるのか。お聞かせ願えればと思うのですけれど。

伊谷座長　　対象年齢とかそういうところですね。事務局の方でこれに関して何か，具体的なものはございますか。

秋久副園長　　対象年齢を一つだけに絞るという事ではありません。当然，利便施設を整備していく中では，例えば，既に３月の後半から NPO さんがグッズ，オリジナルグッズの販売等を手掛けられている関係も含めて，それの広がりをもたしたような中で，先程委員の方からお話がありました，財布の紐を握っている対象者というのもそうですね，ただ，教育施設である事も含め，年齢層を分けた中での，例えば低学年層とか，高学年，それ以上の年齢層への教育プログラムも含めたサービスも含めてです。最近，特に動物園に対して意識が高まってきているのかなと喜んではいるのですが，７０歳以上の市バスが無料でという年齢層の方達がご夫婦で来られる様も見ますし，障害者等の団体での講演依頼とか動物園の来園というケースも増えているかに思います。ですから，今この整備の中で一つの年齢層を絞り込むという事では無く，そういった年齢層と言いますか，対象者に対してそれぞれを意識したサービス。今までずっと行ってきたのは，動物園として発信出来るものだけを出してきた，それに対して，それを求める方達がそこに何かを求めてやって来て頂くという形が主だったと思うのです。ただこういう整備を行っていく中では，ある一定それぞれの年齢層に的を絞った取組いうのを，バリエーションをつけて組み入れていきたいという風には思っております。ただ中山委員さんからご指摘あった部分については，もう少し具体的な案という様な事のご指摘だったには思いますが，かなり詰まった具体的な案を今ご提示出来る状況じゃないです。今後，委員さんの意見も含めて，様々な御指摘を参考にしながら，私たちの持ってきたノウハウ等を活かして，ゾーニング計画を進めていく中で，より確固たるものにしていきたいと考えています。漠然とした意見で申し訳ありません。

伊谷座長　　動物園であるがゆえに難しい部分も確かにあると思うんです。ただそれは，次の新たな入園者の開拓という項目も設けられておりまして，そことも密接に関係してくるものだと思います。どうしても，動物園或いは動物施設の場合，どういった人達を対象にするかという，内容によっては非常に難しい問題で，レベルの高いものであったり，或いはもう少し，子供たちにも分かり易いようなものであったりと，色々と考えないといけませんので，具体的にこの年齢っていうのは非常に難しいと思うのですが，その一方で，新たな入園者の開拓という項目を挙げている以上は，じゃあ今まではやっぱり子どもを対象にしてきたのか，じゃあこれからはもうちょっと大人の方に目を向けようとしているのか，逆に，いやもうちょっとレベルが高かったのですよ，だから今度はもう少し対象年齢を下げようと思いますと

いう，大まかな方針とかございますか。

秋久副園長　　現在は，大半が比較的低年齢層です。「おとぎの国」の触れ合いという事に対して，学校への教育プログラムというのがありましたから，今までは低年齢層プラスその低年齢層を連れてくる団体なり，親御さんなりっていうのがどうしても対象だったと思います。そこから，グループなり，個人もそうなんですが，３７ページにも書いてあるとおり，中高生やカップル層という辺が，層に対して出来るプログラムですよね。それと先程も若干お話しましたが，かなり年齢層の高いシニア層という辺の具体的な取組が無かったので，その層に対しての取組については，ある一定，具体的な形作りというのを目指していきたいという風には考えております。

近森委員　　今のお話の続きを言いますと，前回お配りしていただいた委員会の資料の中で，７ページに「利用者の年齢層と性別」というデータがありましたよね。それを拝見しますと，小学校の低学年以下のお子さんと，それから３０代ぐらいのところが突出しているんですよね。ということは，やはり小学校の低学年とそのお子さんを連れていらっしゃる親御さんという年齢が一番突出しているんだろうと思うんですね。この層はすごく大事な層で，当然，動物園だってそうなんですが，ここがリピーターになって下さる物が何かという事を考えることが必要なのかなと思うんです。せっかくデータを頂いているんですけれども，動物園の設備面での感想以降，満足した事とか不満に感じた事っていうのが，データを棒グラフに載せていただいておりますけれども，これは年齢別のクロス集計があれば，どの年齢層がどこで不満を持って，どこで期待をしているかが分かるので，もう少しどこを強化すればいいかというのが，データから読み取られたのが出来るかな，と期待はあります。ここがもし，次回でもクロス集計の結果をお知らせいただければ強化したい年齢層とそのニーズとの関係もはっきりするのでは。

秋久副園長　　１４ページ以降の部分の細かいデータの年齢を分けた部分ですよね。

島田委員　　この１箇月，また色んな人達とお話をしたんですけれども，面白いことに札幌の円山動物園で「ＺＯＯ　ＬＯＨＡＳナイト」っていうのをやっていて，知り合いで出てきまして，それは２０～３０代の女性をターゲット，データで見ているんですけれども，それは動物園の中で色々，ワインが飲めたり，又は音楽をやっている，それで非常に新しいお客さんを開拓していく。普通の発想なら，そんな動物園でワインというのは有り得ないかもしれないんですけれども，逆に２０代ＯＬの意見，３０代ＯＬの意見を聞いてそのイベントをやるというのがありました。ターゲットがはっきりしたところに当ててその展開するというのは面白い企画かなという風に思っております。ちょうど今，サントリーさんと組んで三条烏丸に「IEMON SALON KYOTO」というカフェのプロデュースをやっているんですけれども，そこもターゲットをしっかり見せながら，ただ３０代っていうだけではなくて，３０代でも子連れのご家庭の３０代と，まだご結婚されていないＯＬで働いている方，そういったそれぞれの３０代の中でも明確にターゲットをもっと絞り込んだ上で，京都のカフェの展開とプロモーションカフェというようなことがありますので。それはおそらく，カフェだけではなくて動物園も作り手目線ではなくて，受け手がどんなものを求めているかっていうのを，同時に

リサーチをしていくのが，今回良い機会という風に思っています。

大島委員　　母の日，父の日，老人の日というような特別な日があって，そういう人達のイベントとして企画を盛り上げていただくと来やすくなる。それから，老人ホームの方と子供の児童施設の方が集える時間をもって，身内ではない方との触れ合い，そういう時間帯を作るものいいのではないでしょうか。

近森委員　　今，大島委員がおっしゃった続きで思いついたんですけれども「動物園の日」っていうのを作ってもいいのではないでしょうか。無料に出来るかどうかという，運営的にはよく分からないのですが，「動物園の日」っていうことで，色々な事をやって「動物園は楽しい所だ」という事が分かれば，新しい層を呼び込める。

山内委員　　保育園と老人ホームをしているんですけれども，やはり老人施設の方々というのはなかなか行く所がベストな所がなくて，特に動物園はその中の一つに入っているんですけれども，その中でやはり車椅子が通れるような通路が出来るというのが一つと，休憩施設が整っているかということがすごく重要な部分になってくると思います。楽しめるっていう所が少ないですので，動物園が安全で本当に楽しんでいただける所になったらいいなと思います。そこに休憩エリアが書いてあるんですけれども，どんな施設というか充実をされるのかという事を検討いただきたいと思います。

伊谷座長　　まず，最初にターゲットというような事でしたけれども，先程ご指摘されましたように，小学校低学年からそのお父さんお母さんの年齢層が多いというのが，恐らくそれを受けて考えるのは，動物園である以上はその子達が来るんだろうとそういう前提なんだと思います。それに加えてここに挙がってきているのは，新たにどういった人達を取り込むか。恐らく，この年齢層，或いはこのターゲットを限定するよりは，むしろ今までよりも幅広くかつ子供とその親だけではなくて，カップル，或いは小学生５～６年生，中学生の１～２年生だけでも来られますので，そういう人たちも含めて幅広いターゲットにして開拓を目指していく。もう一つは，前回施設の事について議論して意見が出てきたと思うのですが，低いところに色々な説明を書いたり，易しい文章で書いたり，やはり子供向けの方がいいなと。その一方で大人向けにも知りたいだろうと。その時にあまりにも平易な書き方過ぎると，大人としては分かりづらかったりしますので，少し難しい文章或いは子供に説明出来るもっと具体的な，子供が「お父さんこれどういう意味」と尋ねる，お父さんは偉そうにおまえたちにはまだ早いというような感じで，説明してあげられるような説明文があって，それを二重の構造みたいなもの，当然それが目の高さによって変わってきますので，子供用の説明は低い所に大人については高い所にというような，色々な工夫でやっていけばどうかという意見がありました。そういうことが新たな利用者の開拓に結びついていくのではないかと考えています。この件に関しまして他に御意見ございますか。

山田委員　　ソフト面でのという事で，事業として非常に難しいし，実際，動物園側にとっては位置付けだとか取組の仕方によっては負担の問題とか色々とあると思うのですが，僕自身の経験の中でお客さんが一番喜んだのは何かというと，動物を真ん中に置いて飼育員さんや獣医さんと話が出来たという事，それが一番嬉しいと感じると思います。そんな時，お客さ

んが一番生き生きとした反応を見せてくれます。動物に対してそれを真ん中に置いて飼育員さんと話す，或いは獣医さんと話す，或いは動物園の職員さんと，例えば，これは動物ではないんですけれども，園庭の剪定をしている職員さんと，要するにお話をする，それが動物の住んでいる環境とどういう関わりをもっているかということの話しが出来るという，それが満足度という点では，最高の満足度を与えています。例えば幼稚園の子が来た時，小学校の子が来た時，きちっとしたプログラムがあって，一方的なプログラムでずっと展開していくような授業では，それはそれで一定のレベルは維持出来ると思いますが，今，京都市動物園がこの間続けている努力が，すごくそういう特異性を持っているし，光ってきているし，それをもっと光らせるような方法といいますか，それを徹底的に売りに出来るようなシステムが作れるかどうかというのが非常に難しいと思うんですけれども，この点が非常に大きなポイントかなということを示唆しています。それともう一つは，議論の中で水をさすような言い方で申し訳ないのですが，先程言ったように私自身の経験から言っているのかもしれませんが，やはりここは動物園なのですよね。ですから，２０代，３０代の若い方々が何を望むかという事を考えて，例えばワインを飲みたい，或いは音楽を聴きたい，或いはファッションに興味がある，確かにそういういわゆる世代層によって最大の関心がそれぞれにあると思います。そこから動物園にどう引っ張ってくるのかという議論をするのは，ちょっと違うんじゃないかと感じがしてしょうがないです。動物園という舞台の中で，動物園の持っている目的といいますか，その使命みたいなものが，硬く言えばあるんですよね。その中で何をそこで学んでいただくか，或いは味わっていただくか，感じていただくかというような事をセレクトしながらそこで演出といいますか，場所を作る。そういう作業になるんじゃないかなと思います。だから単にあの人たちの，この世代の人たちの，このこういう部分に興味があるから，この人たちを連れてくる為に何か別の仕掛けをした方がいいという議論をすると，それはそれで一つの方法ではあると思うんですが，議論そのものも難しいし，場合によっては出口を見失ってしまう可能性があるんじゃないかなという気がしてならないんです。ですから，動物園が何をする場所なのか，動物園は一体どういう所なんだ，ということを常に考えながらのアプローチがすごく大事ではないかなという気はしています。ちょっとまとまりませんでしたが。

島田委員　　今，お伺いして特に反論ではないんですけれども，メインは動物園に来ることであり，その発想の広がりとして，例えばそこで少しワインを飲むとか，演出の一環という事で，おそらく本当にワインを飲みたい人はワインのバールに行くとか。あくまで僕が思ったのは，ここに滞在してもらう時間を長くするための方法とか，一つのきっかけ作りっていうのが，動物園なら動物を見に行くだけと思っていた人が，そうではなくて他の事もちょっと新しい取組をしているらしいぞという話題もちょっとあればいいんじゃないかなと思った次第です。上手く説明は出来ていなかったのですけれども，やっぱり動物に触れたいんだけれどもなかなか触れづらい人たちの中間層ですね。どうしても行きたい人はほっておいても来てくれると思うんですけれども，ちょっと背中を押してあげるためのきっかけみたいなものを何か考えてみるのも事案かなという風に思って提案させていただきました。

升光委員　　非常にエゴイスティックなんですけれども，私は，動物園は空いている時間がいいんだと，あまり混んでいない方がいいなという，動物にとって嬉しくて優しくて，来た人にとって嬉しくて居心地が良くてっていうと，あまり人が来ちゃうと困っちゃう。半分は冗談なんですけれども。そういう時に何を感じるかというと，やっぱり動物の姿や動きや様子を見ていてホッとするというのと，何か不思議だなあとか，何なんだろうと思ったりするんですよね。人間って，いったい何だと感じる。それと同時に，先程山田先生がおっしゃったように，それについてのお話をすぐ「どうしてこうなんですか」とか，そこでのやり取りが何よりの最高の動物園での嬉しさでは。ですから，その瞬間というのは好奇心が非常にあるけれども，まず瞬間はたぶん５０歳の人でも３０歳の人でも，やっぱり３歳や７歳や１５歳の感覚は，同時にその瞬間自分の中で生きるような，そういう体験ではあるのです。だから，３歳の子の覚える質と，５０歳の人も７０歳の人も喜べる質っていうのを共通に持ちえるのではないかなと。それは足を運んでみる動物園での瞬間の空気が漂ってないとだめかな。色々な仕組みや呼ぶ手立てが色々な形で出来るのでは。その前に動物園としての一番芯になる部分って何なのか，そこを感じられるような機会っていうチャンスがどういうふうに作れるのかな。幼稚園の園長さんってわりと動物園には来ないんですよね。現場の先生と子どもは遠足で来るのですが。今回動物園に協力いただきまして，休園日に開けてもらって園長さんに一緒に動物園に行こうよ。直接そんな事を沢山伺えないんですけれど，動物に触れ合ってお話を伺いながら回らせていただくという機会を作っていただいた。多分そこで感じた，そういう色々な幅を広げたいというのがありましたけれども，そういう機会の中で，２０組の方が体験された。そこから広がっていく，動物がもっとこうだったらいいのにね，ということが多い。この前の親子会議の資料でありましたように，何かそういう仕組みを続けて，構想としてこういう動物園を作っていきたいという事と同時にそういうことを平行してやっていくような仕組みを作って，色々な方達がそういうことを体験していける，そして位置づける場を作っていけたらと思います。

伊谷座長　　ありがとうございました。確かに私もあまり人混みが好きじゃないんで。先生とやっぱりお客さんに来ていただくということは，その動物園がそれだけのものを持っているということですから，どうしても客観的に動物園を評価する場合ですね，来園者の数とかで評価せざるを得ないところはあると思います。先程の議論ですけれども，島田委員のワインというと何となくみんながこう，私も好きなので惹かれちゃうのですけれども，一つのきっかけというか例ですね。ですから，さき程から色々と，例えばそれがワインでなくても，母の日，父の日，老人の日とか色々とあって，それも一つ一つがやっぱり特別なイベントなんですね。そういうイベントを動物園と絡ましてどうやって設定して，どういうタイミングで行うかっていうことがやっぱり重要であると。それがワインでなくても抹茶でもいいんだと思いますし。何かのイベントの時に何かくっつけてということを考えていければ。これはあくまでも動物園がやるということが前提ですから，動物園で何が出来るか，何を求めていかなければいけないか，ということは当然考えていかなきゃと思います。それから島田委員からあったのですが，飼育員さん獣医さん達とお話できるというのは，楽しいし，お父さん，

お母さんにあれは何だろうというと，飼育員さんは「あれはね」とちゃんと説明してくれますから，それはそれで嬉しいのは間違いないと思いますけれども，その一方で飼育員さん獣医さん達にも他にお仕事がありますので，四六時中そこの現場に出て行くことが出来ないので，そういう時にどういうソフトを持ち込んで，それをカバーしていかないといけないのかというのを考えています。必ずしも私はそれが良いとは思わないのですが，一つの例としてアメリカのある動物園によりますと，定年退職された方々がボランティアで協会を作っておられて，自分で勝手に作って来られて「じゃあ，あなたキリン担当ね」と言われたらキリンの写真を自分でバシバシ撮って，或いは調べて，どういう動物なんだという資料を持って，来た子どもたちにも，全部自前です。ボランティアです。それによってその動物園は支えられているんですよと園長さんはおっしゃっていました。そのような事をやっているところが必ずしも良いかどうか或いは日本の文化に合うかどうかは別として，そういうやり方もありますから，おそらく費用の問題とか，マンパワーの問題もありますんで，どういう対応をしていくかというのは，私は考える事はできませんけれども，必ずしもそういう道がないわけではなくて，何かあるかもしれないという，京都市動物園ではいつも，すごく楽しい，一つ目玉になるかもしれない，或いは夏休みになったら大学生とか高校生とか動物に詳しい子たちが手伝いに来るというような事を取り入れるとか，やり方は色々とあると思いますので，そういう事を今後議論に考えていかないといけないかなと。

澤辺委員　　地域の支援団体，ボランティアと連携するということについて，先生がおっしゃったことはなるほどというところがあったのですが，地域の方がどうしたらいいのか，わからない。それともう一つが，地域の者が岡崎動物園へ行こうやという人はほとんどいない。何かの行事が当然ある。どうしても平安神宮とか岡崎グランドへ行こうとか，岡グラと言いますけれども，岡グラで集まろうかと或いはテニスコートとか。ですから動物園というのはほとんど我々の地域では薄れているという感覚が多いです。前の何かの会議の時に，山極先生とかと話ししたんですけど，コマーシャルベースに載せるためにやってはるのかな，何なんだろうな，さっぱり分からない。根底にそのコストがかかるわけですから。そして皆さんがおっしゃるみたいに，全ての皆さんに愛される動物園作りなんて有り得ないと思いますし，どうされるのかなというのがあります。わかれば教えてください。

伊谷座長　　具体的なこの回答というのがあるかどうか分かりませんが。何かあればお願いします。

長谷川園長　　地域の関係上でありますけれども，まず京都市があげていますように，今は動物園だけではなくて岡崎地域全体の文化塔としての活性化といいましょうか，そういう立体的な考え方がバックグラウンドにございます。先程，私ども前回にご提出させていただいておりますこのアンケートの中で，３０歳代それから０歳から３歳までの子どもさんの入園が非常に多いという事につきましては，それは岡崎地域なのかどうか限定は出来ませんけれども，逆に私どもしましては，よく園内に来てもらっているのは若いお母さん方が公園デビューするような形でこの動物園を利用して頂けるような形と，先程のご議論と同じように，新たな入園者の開拓と申しましょうか，その中で考えているところでございます。従いまして，私

どもも若いお母様方，バギーを持って来られるお母様方がどこから来られているのか，そこまでリサーチは出来ていませんけれども，そういう意味では平日の入園者の少ない時の集客をどのようにしていこうか，というふうな発想の中では大事な部分では無いかなという風に考えています。それと，ボランティア活動の関係ですけれども，これも私どもまだまだ情報発信が出来ていないという風に考えておりまして，反省しているところでございます。やはり発信はしていきたいということです。この中にも書きましたように，例えばサル島の温泉につきましては岡崎中学校の子ども達の発想があったというふうなところ。それは動物園に相談して頂いて，最初は温泉を掘ったらどうだ，というふうな話だったそうですが，それはちょっと無理で，そしたら温泉というか熱湯を持ってきたら，という話の中で，地域の事業所さんなりにも協力していただける，或いはお風呂屋さんも協力していただけるという風な事で，一つの形が出来てきたという経験がございます。そういうふうな事も動物園が果たせないかな，という様な目標を持っているわけでございます。従いまして，色々な動物園でしたい，或いはしてあげようという御意見が，また声がございますので，私たちはこれを受け入れて，一緒にやっていきたいというのが全体的なソフト面での中身になっております。私たちも非常に模索しておりますけれども，やはり地域に根付かなければというふうに考えております。

伊谷座長　　全ての人に愛されるものはまずなかなか作りあげられないものです。その全ての人をどう仮定するか。全人口にするのか，むしろその地域がないと周りに広がっていくことはまずありませんから，その地域の方々が動物園に対して，例えばさっきおっしゃった私も近くにおりますので岡グラと言われればピンとくるんですけれども，そういう愛称で呼べるような場所として動物園をどうすれば機能して活かせることができるのかというような御意見を頂けるとその厚みが出てくるんじゃないかという気がします。他に何か御意見がございますか。

中山委員　　色々と地域を交えてということであれば，岡崎であれば「岡崎検定」なんかいうものがあったりと，新聞で知ったりしたんですけれども。地域を巻き込んで岡崎の文化ゾーンの中で，何かそこで問題とか，そういった事を交えて全体を盛り上げるというのも地域と連携であるのかなと。私の方からは違う切り口なんですけれども，例えばよく何か商品を買いますと，環境にエコエコで，１円でも寄付されてそれが森林になるとかいうことがよくやられていると思うんですけれども。例えば，動物園の自動販売機で買うと，必ずそれが何かに廻るような仕組みがその中にあるとか。前回，カフェの話がでていましたが，カフェの中のコーヒー豆はどこかのアフリカのコーヒー豆であって，それを買うと「オランウータンに何かこうそういうふうなものに変えていくのですよ」って事で，京都市の動物園に来ているんだけれど，世界中の動物園に何かフィードバック出来るような事を京都市動物園が発信すると，もう少し大きな目で，来るだけでエコポイントではないんですけれども，動物ポイントみたいなもので換えていける仕組みなんかすると，無理なく新しく，新しいのもあって無理もあまりなく，世界中にやっているんですよってことが出来るんじゃないかなと思ったりしたんです。そしたら地元も全体も協力出来るし，観光の人も協力出来るし，そんな仕組み

があるとちょっと嬉しいかなと思ったりしています。

山内委員　　先程おっしゃった動物を真ん中にして見学とかを飼育員の方がという話もあったんですけれども，さっきおっしゃったように飼育員のみなさんもお仕事があるから，行った時にたまたまいらっしゃったらいいんですけれども，いらっしゃらない時もかなりあると思います。そういう面ではさっきもおっしゃったようなボランティアの方を増員していただけたらということを是非ともお願いしたいと思うのです。「今日はいはらへんかったわ」と動物園の方がいらっしゃらなかって，子ども達がちょっと残念に思って帰ってきた時もあるのです。そういう意味では，職員の方では補えきれない部分をボランティアの中でしていくふうな意見を是非ともお願いしたいと思います。前にも言いましたけれども，ここに来て美味しい物も食べられて，動物園も見られて，ここから一歩出て色々な所に子ども達を連れて入れるような所っていうのがあまりないんですよ，岡崎の地域というのは。わざわざ外へ出てまで食べるっていうのは大変だし，ここだったら少し楽しめるようなレストランがあったらいいな，少しあればいいなというふうにはやっぱり思います。

近森委員　　中山委員のおっしゃった事が実現出来たらいいなと。例えば私たちが買ったものがアフリカの動物に繋がっているっていうのであれば，何かすごく自分も嬉しいですし，そういうことは他の動物園ではやっていないんでしょうか。日本の動物園で，もしやっていなかったら，それを最初に京都市動物園でやるという。それからもう一つ，新たな入園者の開拓と市民との共汗というかその２つを同時にやるということで，先程からも出ていましたように，これから日本は高齢化社会になっていく。元気な高齢者のボランティアとして，色々な場所にいて下さるということと，もう一つは若い層を取り込んだという，京都は大学の街ですから大学生達にボランティアでガイドを，もちろんトレーニングはするのですけれども，そういうことがあれば，学生は自分のやっている事を必ず友達にやっているということを嬉しくて言いますから，それだけ認知が広がる。高齢者の方もやっぱり自分がなさっている事を周りの方におっしゃいますので，そういう意味では動物園の周りの輪が広がっていく。非常にいいアイデアを出していけばと思うのですが。

大島委員　　動物園ではぜひぜひ色々な世代のボランティアを目指していただけたらと思います。そのために愛されるボランティアの制服ですね，いわゆるベストというかチョッキというか，ああいうたぐいの年配でも若者でもどなたが着られてもお洒落というようなもので作って頂いて，お兄さんがおばあちゃんにお願いっていう感じでボランティアに付き合っていけたら嬉しいなと思います。ジュースとかいう類ですけれども，もし１００円から１円をどこかへあげるというと，私のアイデアでは足すことになるんですけれども，このサントリーのこのジュースを買ったらオランウータンのところへ１円いくんですけれども，そのジュースにオランウータンのシールがペタっと貼ってあって，それはお金が掛かるかということで，どこかの場所にネーミングを入れて，この会社からこのシールが貼られているというようにすると，買った時に「あっオランウータン！」というのがすぐ分かるという感じの，プラスアルファがあったらいい。それと教育の方で，雨が降ったら人が少ない時どうするかというので，ビデオで子ども向き，大人向きの色々なものを用意して，何時から何時までこういう

のが映っていますよというのを早めから知らせておく。そして連れて行った時に子どもが「あれ何？」という性教育ですね，あれをものすごく大事にして頂いて，ここでこそ教えて頂けると思うから，学校で性教育をされる時は「動物園のあのビデオを見せたらいいな」と先生方がここを頼られるような場所にしたらと思います。

島田委員　　さらにアイデアなんですけれども，学生ボランティアにコンピュータに詳しい学生さんに，普段インターネットテレビに対応することができるｗｅｂカメラというのがありまして，先程の山田委員さんがおっしゃった動物と飼育員さんとしゃべっている状況をここに来られなくてもインターネットで見られるようなそんな仕組みを今作る事が出来ます。それですと，京都のみならず全国世界にも発信出来ますし，逆にそこでワンクリックいくらっていう形で課金をして，動物園としての収入を得る事もできます。やっぱりインターネットで見ているだけでは実際のところは，少しフラストレーションが溜まるので，最終的にはライブでここに来てもらえるようなそんな導線を引くことも，今の最先端のインターネットの通信で可能だと思いますので，これは一つ学生ボランティアの人に手伝ってもらうと非常にいいのでは。これが一つの情報発信のツールとしてすごくいいのではないか。

山本委員　　ライオンズクラブと動物園の関わりといいますと，どうしてもお金の関わりになってきますが，３３年の歴史を持っておりますが，たまたま再来年が３５周年ですので，委員会は立ち上がっていますが，動物園はおそらく対象になるだろうということで，具体的なアプローチがあるのではないかなと思います。楽しみにしておいて下さい。私も動物園が大好きでして，今の女房と見合いをしたのが天王寺の動物園です。先程，お話がありましたように，私は手が少ない中できちんと動物と話し合いが出来るとそういう環境の方がいいんじゃないかなと思っています。運営する側から言えば運営上で難しい問題があるんでしょうが，運営の面まではご指摘できませんが，動物という面でご支援できると思いますので楽しみにしております。

近森委員　　今，アフリカのコーヒー豆の話がでましたけれども，前回配られた資料の２１ページに，売店への要望ということで，前回も出ましたけれども，ここにしかないレストラン，ここにオリジナルグッズとぬいぐるみと絵本と出ていたので，私すごく嬉しかったのですけれども，やっぱりここにしかない，アフリカとこういう事をやっていますよ，このコーヒー豆はどこか「京都市動物園でしか飲めませんよ」というのが，そういうものがあると単純にいいなという事で，これはぜひ実現してですね。

伊谷座長　　そうですね，無理な話ではないですね。ただ，どうしてもアフリカとか東南アジアで行われる場合は限られてきますので，何でもかんでもというのは難しいと思いますね。

山田委員　　今，全国的には日本の動物園・水族館が加入している団体，日本動物園水族館協会という組織があって，世界的な視野に立って活動を展開しています。今，京都市動物園でもパンダ募金だとかもう一つの募金，２種類の募金箱を置いてあって，それぞれ野生動物の保全，特に希少動物の保全ということでの寄付活動は全国的に展開されています。動物園はそれはやっております。ただ，先程言いましたように，例えば一つの商品に対してというような形での具体的な例は聞いた事は無いですね。ただ，ある程度考えないとこれは非常に難

しい話で，ちらっと先生が問いかけたと思うんですが，例えばそういうシステムを作るということだけでも大変なんですね。コーヒーで言えば，コーヒーを輸入しているメーカー例えば京都であれば，何とかコーヒーとかありますよね。そういうようなところがそういう風な事業を展開している時にそこに乗っかって，共同的に運営するという事だったらかなり現実的な話になるだろうと。例えばそういう企業と上手に協力をし合って展開をするというのだったら可能だと思うのですが。おそらく京都市動物園が単独でそういうようなシステムを導入するっていうのはひとつひとつ考えてみても大変な話になるでしょう。おそらくひとつ作るにも大変な経費と労力が必要になります。ですから，日本にあるそういう商品の流れの中で，それが有効に活用出来そうなシステムがある所と提携できるようにすれば非常に面白い企画になるんじゃないかなという気はします。

伊谷座長　　ありがとうございます。実はすごくおっしゃるとおりです。実は私はあるＮＰＯに属していますが，どうしてもコストが高くついちゃうんです。今おっしゃったように何かそういうルートに乗っかってしまえば輸送コストも下がりますし，それからいわゆる煩雑な手間も省かれますので，それは一つ方向として探してみる価値はあります。特に日本でないものでいうと，現地の特産品を京都市動物園でしか買えない，ここにオリジナルショップがありますのでそういったものに繋げていくと，今回のようなサービスにも図れるんじゃないかなと。そういった案というものを出していただいて，それを吟味しながら１００％全部出来る訳ではないんですけれども，集約して実現に向けていくというシステムを目指していくという形で皆さんと検討していきたいと思います。すみません，あまり時間がありませんで，最初に申し上げましたように「動物園大好き市民会議　市民ワークショップ」でのディスカッションの状況等をメッセンジャーから報告してもらわなければなりません。その時間を取っています。４時までは議論をさせていただいて，その後各メッセンジャーから３つあるんですね。そうしましたら，今申し上げましたようにディスカッションの状況等をメッセンジャーからご報告願います。３名のメッセンジャーの御報告終了後，それに対する御質問，御意見等を出していただいて，全員で議論を行いたいと思います。よろしくお願いいたします。「まなびの場」をテーマにしたミノリ班，「環境整備」をテーマにしたミライ班，最後に「企画，宣伝，サービス」というマンゴロウ班の順にお願いいたします。

ミノリ班　　＊報告

ミライ班　　＊報告

マンゴロウ班　＊報告

伊谷座長　　ありがとうございました。それぞれ内容の中にワークショップでのディスカッションの状況等をご報告いただきました。テーマが「企画，宣伝，サービス」，「まなびの場」と「環境整備」ですから，どうしても重複せざるを得ない部分が出てきます。またそれぞれの独自性がでているものもあると思います。そういう部分を全部含めまして，委員の皆様から何か御質問或いは御意見等がございましたらよろしくお願いいたします。

澤辺委員　　岡崎の名前を多く言っていただいて有難いのですけれども，以前にこういう会が山極先生を中心にあったんですけれども，動物園の機会があった。その時にかなりこういう

のが出ていたんですよ。その中で，地域を入れていく中では近代美術館なり公園なり色々な所があるんですけれど，その連携が全然出来ない。何故かと言えば予算があるから。縦割り行政で，全然別個だということですね，違うんですか。連携出来るのですか。それとですね，こうして言って頂いた中で，聞き流すんでありましたら，実現，実行することが一番重要です。強烈な事はありません。何とかやるためにはそういう事を縦割りとか何やとか，要らない理由を付けずに，何とかやれる努力をお願いしたいと思います。前にある疏水に舟が浮かんでいる時に，出来たら船を待つ方達が動物園に来られるようにしてあげて下さい。そして割引もしてあげて下さい。同じ市でやるんだからという話もしました。近代美術館へ行く入場券で待つ時間があるならば，その時間動物園へ来てもらえるようにして下さい。それも，返事は良くなかったです。それからもう一つ，やっていただいた中で平安神宮に元旦でしたかね，お正月に開けていただきましたよね，何年か前に。開いていませんか。この提案もさしていただいて，これは実現していただいて，その成果はどうやってかということは分からないですけれども。地元の岡崎中学校の生徒の温泉の話がありました。その導入はどういう形でされたのかなというのは私には分からないですけれども，地元の娘さんがしていただいて良かったなという話をしていた。その後はもうそれで終わりとうことなので，出来るなら何か折角こういう行政が頑張っていただいているのだから，素晴らしい提案が沢山入ったものを何とか実現してもらうようにお願いしたいと思います。

長谷川園長　　今お話いただいたのは，一昨年ですか，この案を考える以前の「あり方」の会議の時ではないかなと思ったのですけれども。現在，市民会議をこのように構成させて頂いて，皆さまにもお話をさせていただく中，或いは皆さま方にも御意見を頂戴しているのは，ここに書いていますように，市長が言っております「共汗」というキーワードの下で，役所の中では各所属の所管の縦割りではなくて融合という言葉を使っておりますけれども，それらを基にこれからよりよい施設，或いは行政をやっていこうということで。現実的に色々な規制等もございまして，出来ない部分もございます。前回の委員会でも夜間の開園の話が提案いただきました。皆様方の御意見と申しましょうか，職員の問題があるんではないかというのが非常に強く私に感じたところですが，私の方では決してそのように思っておりません。ということと同じように，現在言われます岡崎の連携の部分につきましては，それぞれの施設の特徴がございまして，目的もございますので，必ずしもお答え出来ない，やり切れないというところも現実的にはございます。もう一つは，どの施設も古くなってしまって，今，再構築，再整備をしていかなければならないという一面をもっている施設になっております。これもそれぞれがそれぞれのいわゆる「あり方」なりを検討する計画ということになっております。従いまして，即物的にすぐに一緒にやろうというふうにならないかも分かりませんけれども，私どもは，岡崎の，みやこメッセも含めてなんですけれども，年に二回ほど私クラスが出る会議をしたり，或いは課長級の幹事会は年に三回ほどするとかいうことで，この数年間やっておりますので，私たちはこれでやっていきたいと思っています。私たちが考える，これは私の話で申し訳ないんですけれども。この前の岡崎道の疏水の所の美術館の側に疏水へ降りていく階段があります。しかし今，それが柵で閉じられている。これはやはり何

か歴史的というのか，何か今までに問題があったんだろうというふうにも考えています。私どもはそういう過去も色々な問題点とかも十分踏まえたり，或いはそれを検証したり，対策を立てたりという部分を含めて，これからはこの会議をお願いしたように，いろんな御意見を頂戴しようというスタンスでございます。これは動物園だけではなくて，同じ文化市民局にあります視点として，やっていきたいというふうに考えておりますので，色々と委員がおっしゃったように，過去，そういう予算の問題とかいうことで言っておったかもわかりませんけれども，現実的にお金の問題が非常に重要な問題ですけれども，それはそれとしてと言ったとしたら，怒られますけれども，それで枠を超えるのではなくて，そこからどのように考えていくかということではないかなと。そういうことを委員の皆様方にも或いは本日メッセンジャーがご報告頂戴した御意見も既に頂いておりますので，私どもはそれをさせていただいてと思いますから，何卒，これからも私たちの取組，方向性について，組織を引っ張って頂いたらなというのが私の率直な感想とお願いでございます。

島田委員　　みなさんのアイデアをすごく楽しくきかせていただきました。今の連携でいくとスタンプラリー制度みたいな形で，東京でそんなイベントをやったんですね。東京デザインアートウィークということで，港区，渋谷区に点在するアートなりデザインの施設をそれぞれ巡るんですが，それはお金に絡むことではなく，スタンプラリーというカードを作って，それでそれぞれをまわって最後終着点に辿り着くというふうな方法を取って。それが非常に好評で，最終地点には何かとっておきのプレゼントを用意しておく。そんな形での連携は一つあるかと思いました。あと色々なアイデアでＷｅｂの広報に関して，ＷｅｂＴＶ，スカイプ，そんなものを使ってみるとすごく連携が出来る。あと近代遺産。これはすごくおもしろいと思ったのは，岡山で「ぎゅうじま」という精錬所を近代遺産として再生しています。それと非常に趣きが連動しているなと思ったのは，このレンガ建の京都の建物に一つ価値を付けて展開する。あとユニフォームの部分で，着物ではなくても，そういった普段アパレルをプロデュースしている中で，今日着ている伝統とモダンを融合したアパレルなんですけれども，西陣の帯の柄を再生してこういうふうにも変えられるというような。最近京都では若手のデザイナーがこういった形でのアパレルブランドを立ち上げている。そういった所と連携をするというのはどうでしょうか。

山内委員　　ミノリ班の方で提案いただいている「環境教育の充実」に小学校と協力してエサの野菜作りというところがあるんですけれども，今，食育で子ども達の職についてかなりいろんな所で活発に動いていられると思うんですけれども，小学校の方でも実際に野菜作りを沢山していただいています。子ども達が十分に食べられる量とかでもないですし，これが動物園に行って，動物達が食べるということ，そんな楽しみがあったら，すごく楽しいだろうな。作るものが真剣になって，一生懸命，色々な物を作ろうとする。それは確かに動物園の方と何が本当に動物に役立つかは，連携を取っていただければならないかと思うのですけれども，子ども達には楽しい企画であるのかなと思います。

伊谷座長　　はい，ありがとうございます。他に何か御意見はございますでしょうか。

小篠委員　　私の方はですね，環境教育との動物のえさ作りというのを，どう繋いでいくのか

というのは，かなり飛躍がある。最近，何でも環境という言葉を使えば，大事なものとして成立するというふうに動いてはいますが，必ずしもそうではないというのが多いですね。子どもがしっかり理解が出来なければ，やらされているだけの集いになってしまう恐れがあります。動物園に近い小学校が常に動物園へ来ながら，私たちにも優しくして行く，そういう思いの中でさせていかなければ，小学生が野菜作り，動物のための，という運動としては成立しにくいかなと私は気がします。私は緑の環境作りを挙げていただいたのは大賛成でして，ここは生き物が生活する森のある地域であるので，やっぱり動物達にも自然の環境というものを私は現場に提供していきたいと思うし，そういう中で動物を見ていく人の方の癒しというか，安らぎというか。やっぱり，砂っぽい遠路が非常に気になります。先日，一回目の時に終わってから園内を案内していただいて，革靴で来たのですが，ほこりでドロドロという，そんな感じで一周まわって帰ってきました。土も自然のままでいいんですけれども，芝生とまではいかずともオオバコでも何でも結構ですので，もっともっと緑を増やしていく中で，動物にとっても居心地の良い，自然環境を作ってやりたいなあと，そういうふうに思っております。

伊谷座長　　ありがとうございます。確かに色々な言葉として環境とか，いろんなところから出てくるのですが，対象は何なのかというところを突き詰めないと，それなりに出来ない。「なぜそれをするのだろうか」という目的ですね。それをやっぱりちゃんと伝えていくというところがあると思います。他に何か御意見ございますでしょうか。

澤辺委員　　臭いの件ですけれども，苦情があったんでしょうか。

秋久副園長　　以前，あそこに一番近い動物舎の所に，ラクダの系統の動物を飼育していました。下水の汚水処理が十分じゃなかった部分があって，土壌を変えるなど，側溝の清掃もちゃんと整備をした中で行いました。動物臭は，今はバクがいるのですが，なくなったと思います。周辺の色々な植物の関係も，かなり生えっぱなしなっていた部分を，ご近所の方のご協力で桜を植えていただくということも含めて，整備をして，現在ではさほどじゃないと思います。以前に，そういうような状況があったので，御意見と受け止め整備しました。そういう要望など，今後整備を進める中，そうならないように整備をしていくようにと受け止めています。

澤辺委員　　地域からは全然声があがっていないです。というのは府政協力委員の会議の中ではあがらないです。

秋久副園長　　きっとその整備をして以降は，今現在ではないということだと思います。以前は結構臭いがあって。

澤辺委員　　声の方が大きい。

伊谷座長　　野生動物でしたらしょうがない。においを消すというのは不可能だと思います。その一方で，副園長もおっしゃいましたように，色々な化学が進歩していますから，整備ということではかなり進んでいると思います。特に最近，環境問題とか，かなりうるさいですから，そういうものにも，ちゃんと考慮したような，何か色々な対応が必要になってくると思います。私も動物を飼育しているんですけれども，すごく単純な事では，おがくずがありますよね，あれを混ぜるだけで臭いは完全に消えます。何も機械も何も要りません。おがく

ずをまくだけで，それで糞尿を処理して，あとはそれを回収するだけで，臭いは全然。ちょっとした工夫で，そういう工夫が色々とこれから出てきて，それを達成していくことでそういう問題を解決させていくんじゃないかなというふうには考えております。色々と御意見ありがとうございました。そろそろ時間も迫ってまいりました。最後に，委員の皆様に，今日ご発言いただいて，実現して実行していくということが大事だと思いますし，それに対して，澤辺委員の方からも，長く抱えてきた縦割り行政の問題とか資金の問題とか色々とありました。あとは京都市，或いはこの市民会議，専門会議がその問題を打ち破ってですね，前進しようとしている表れだと思うんですね。私は京都大学の方におりますけれども，京都市動物園は，実現しないだろうと思われた連携を日本で初めて達成したわけです。それによって研究委員，教育委員によっても，或いはそういった市民を巻き込んだ　一つの大きなイベントとしてやっていこうという，今まさに第一歩を踏み出したところでして，これまではなかなか色々なことをあれやろう，ダメ，これやろう，ダメと言われましたけれども，少しずつ一つのプロデュースとして，一歩でも前に出ていき踏み出していくと，今までの壁をぶち破っていくというのが，私たちの議論していくことの意味だと思うので，今後とも皆さんのご協力をぜひともいただいて，良い動物園，良い京都市づくりというものを心掛けたいと思いますのでどうかよろしくお願いいたします。だいぶ長くなりました。今日は色々とありがとうございました。今日は基本的には「ソフト面の充実」というテーマで素案ごとに議論をしていただきました。また，市民ワークショップの方からも非常に濃密な盛り沢山のご報告を頂戴いたしました。時間の都合もありますので，今回の委員会は取りまとめを行いたいと思います。概ね，動物園，素案の方向で委員会のとしては意思共通が出来ていると思いますが，いくつか委員や市民ワークショップからも新たな意見も出ておりますので，そういった部分も含め，事務局において，内容を反映した修正をお願いしたいと思います。よろしくお願いしたいと思います。次回，第４回の委員会では，構想素案にこの間の委員会での議論やワークショップの意見と市民会議の御意見を付け加えて中間報告での構想案をまとめたいと思っております。また本日の意見，意見交換を踏まえまして，再度，市民委員ワークショップの代表にも参加していただきたいと思います。なお，素案の補筆中間報告等は座長の私と副座長と事務局で作成したいと考えておりますが，宜しいでしょうか。島田委員，よろしくお願いいたします。

＜次回開催日＞平成２１年７月１３日（月）１５時から１７時